株式会社 一戸ファッションセンター

DATA
［代表者名］代表取締役　瀧　博司　［設　　立］1990年4月
［実施場所］〒028-5311　岩手県二戸郡一戸町高善字古舘平36-30
［資 本 金］1,000 万円　［従業員数］53名
TEL.0195-33-3533　FAX.0195-33-2696
［事業内容］婦人服（ブラウス、ワンピース、スカート、ジャケット、コート）製造
E-mail. ichinohefashion@arion.ocn.ne.jp

24年度 事業計画名　**高速自動裁断機（CAM）の導入により、作業の単純化・製品の均一化・短納期化と雇用拡大の実現**

高速自動裁断機（CAM）を導入し、作業効率と品質向上を実現

裁断の時間短縮と省力化を図り、生産性と品質向上を実現。裁断の効率化が図られ、これにより捻出された時間を社員教育に充当、技術力を高め、メーカーの信頼獲得、新規取引先開拓、業績向上につなげていく。

あらゆる婦人服の生地を迅速、正確に裁断

岩手県北地域は、有名ブランド品を縫製するアパレル事業者が集積している地域である。その事業者の一つである当社は、地元の女性技術者を中心にして、素材や仕様にこだわった婦人服の製造を行っている。

ブラウスやワンピースなど婦人服の生地は柔らかく繊細な素材も多く、また伸び縮みするストレッチ素材や異素材の組み合わせもあり、扱い方の難しいものが増えてきている。

当社では近年、こうした生地の裁断に多くの人員を要し、裁断時間も多大に必要とされたことが課題となっていた。従来の裁断機は延反工程に２人、裁断工程に２人の合計４人を配置しなければならないうえに、時には裁断機にエラーが生じ、緊急停止や故障を起こすこともあった。こうした課題を解決するために、少ない人員で生地を高い精度で裁断し、作業効率の向上が図られる高速自動裁断機を導入することとした。

数々の高級ブランドを手がけている。

裁断工程の速度と精度が大幅に向上

新規に導入した高速自動裁断機は、生地を３cmまで重ね、吸引搬送裁断装置により生地を吸引したまま送り裁断する仕組みである。裁断時間は、生地巾1.2m×4.5mの生地に婦人服型を２型入れ30枚重ねの場合、従来の裁断機は手作業で約１時間必要とされたが高速自動裁断機は約７分で終えることができ、裁断工程の速度や精度は大幅に向上した。

芯貼り（服地のシルエットを形づくる芯つけ作業）は、これまで１パーツ毎に裁断し行なっていたが、芯貼りのあるパーツをまとめて表地に芯地を貼り付けた後、高速自動裁断機で裁断が可能となり、10着あたり約１時間の時間短縮が図られている。

また、この高速自動裁断機にはCCDカメラ（光感度の良いカメラ）が搭載されており、裁断機上の生地の曲がりを感知すると生地を自動調整することから、裁断時の生地の「ずれ」は起こらず、裁断の仕損じの発生もなくなっている。

さらに、延反から裁断までは１人のみで作業が可能であり、これまでの裁断機に比べ縫製現場に配置できる人員が増えている。また、欠勤対策として３名の社員に高速自動裁断機の操作を習得させ、日常作業に支障が出ない体制となっている。

パソコンと連動したインクジェットマーカーから、印字されたパターンを出力。

効率的で適正な人員配置を実現

当社が受注する婦人服は、多品種小ロット生産品が多いため、製品デザインはバリエーションに富み、パターンの異なる裁断を繰り返し行うこととなる。そのため、裁断工程の効率化が生産性向上の鍵となるが、高速自動裁断機の導入により裁断の効率向上と省力化が図られ、省力化された人員を縫製現場に配置できることとなり、生産性の向上につながっている。

サンプル縫製では、これまで３型／日の裁断が限界であったが、６型／日の裁断が可能となっており６着／日のサンプル提示が可能となっている。

これまで2人で行っていた裁断工程は1人で可能となった。

現場改革に努め、魅力ある職場づくりにつなげたい

当社では世界的な高級ブランド品を縫製し、発注するメーカーと信頼関係を築きながらビジネスマッチングフォーラムなど、商談会等に積極的に参加し、新規取引先の開拓に努めている。メーカーの高度な要求に応えるため、当社では社員一人ひとりが３工程の作業を処理できるよう１年以上教育しており、高速自動裁断機の導入は、こうした社員教育に向ける時間の拡大につながっている。

今後も社員のスキルアップに注力し、製品の企画開発に挑戦するなど付加価値を高めていくとともに魅力ある職場環境の整備に努めていきたい。

「アナログからデジタルへの移行が進み、縫製の現場も変化してきている」と語る、代表取締役の瀧博司さん。時代に対応した設備導入や社員のスキルアップに取り組んでいる。